

令和3年5月28日

利用医各位

松阪地区医師会臨床検査センター
保健医療センター

臨床検査センター「メモ」(NO245)

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
外注先の(株)SRLの変更案内を掲載いたします。

記

[1] 下記の検査項目におきまして、新規項目の受託開始に伴い、6月1日
ご依頼分より、従来項目から切り替えとなりますのでご了承ください。
い。

- TSH レセプター抗体〔CLEIA〕(2021年4月1日より受託中止となっ
ておりましたが、再開となります)
- 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)〔CLEIA〕
- 抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕
- サイログロブリン〔CLEIA〕
- トリヨードサイロニン(T3)〔CLEIA〕
- サイロキシン(T4)〔CLEIA〕

上記新規項目の受託開始に伴い、下記の従来項目は2021年9月30日をもって
受託中止となりますのでご了承ください。

- TSH レセプター抗体(第3世代)

● TSHレセプター抗体〔CLEIA〕

甲状腺の濾胞上皮細胞膜に存在する甲状腺刺激ホルモン（Thyroid stimulating hormone：TSH）の受容体に対する自己抗体であるTSHレセプター抗体（TSH receptor antibody：TRAb）は、TSHレセプターと結合することにより甲状腺ホルモンの合成を促進し、バセドウ病における甲状腺機能亢進症の発症要因となります。

TSHレセプター抗体の測定は、甲状腺機能亢進症におけるバセドウ病の鑑別診断に有用です。

▼検査要項

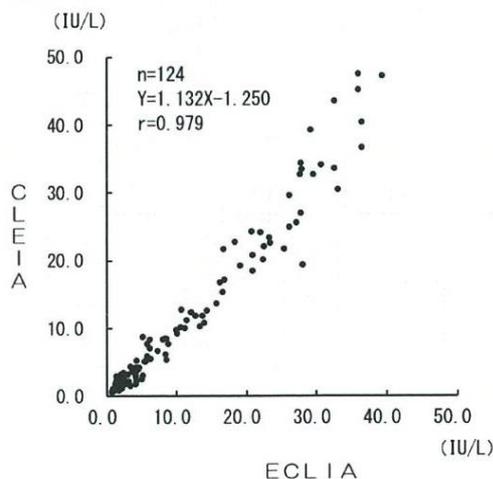
検査項目名	TSHレセプター抗体〔CLEIA〕
項目コード	X702 8
検体量	血清 0.8 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2～4 日
検査方法	CLEIA
基準値（単位）	2.0未満 (IU/L)
報告範囲（単位）	0.5未満、0.5～49.9、50.0以上 (IU/L)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	226点 (「D014」自己抗体検査「26」)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターモノクローナル抗体(ヒト))を用いた第3世代TRAbです。

●参考文献

矢野 美沙希, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793～804, 2020. (検査方法参考文献)

古田島 伸雄, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 39 (1) : 39～43, 2014. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表：単位 IU/L)

		ECLIA		計
		2.0≤	<2.0	
CLEIA	2.0≤	86	2	88
	<2.0	11	25	36
計		97	27	124

2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）〔CLEIA〕

自己免疫性甲状腺疾患であるバセドウ病や橋本病の患者血清中に多く存在する抗マイクロソーム抗体は、甲状腺マイクロソーム分画の甲状腺ペルオキシダーゼ（TPO：thyroid peroxidase）に対する抗体であることがわかり、抗TPO抗体と称するようになりました。

抗TPO抗体は、甲状腺細胞に対する細胞障害作用を有し、自己免疫性甲状腺疾患が疑われる場合に測定されます。

甲状腺組織の崩壊に伴う腫大（甲状腺腫）がみられ、抗TPO抗体陽性の場合は、バセドウ病や橋本病を考慮する必要があり、またこれらの疾患の治療経過観察にも有用であると評価されています。

▼検査要項

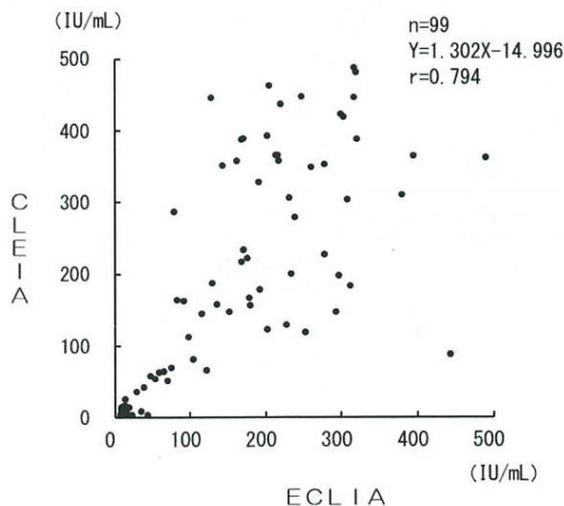
検査項目名	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）〔CLEIA〕
項目コード	X580 0
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2～4 日
検査方法	CLEIA
基準値（単位）	3.3未満 (IU/mL)
報告範囲（単位）	1.0未満、1.0～99900000 (IU/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	146点 (「D014」自己抗体検査「11」)
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	

●参考文献

矢野 美沙希, 他：医学と薬学 77 (5) : 793～804, 2020. (検査方法参考文献)

戸井田 晋, 他：ホルモンと臨床 43 (11) : 1107～1115, 1995. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表：単位 IU/mL)

		ECLIA		計
		16≧	<16	
CLEIA	3.3≧	63	13	76
	<3.3	3	20	23
計		66	33	99

2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● 抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕

甲状腺疾患では、各種の甲状腺特有抗原と反応する臓器特異性の自己抗体が検出されることがあります。抗サイログロブリン抗体は、甲状腺濾胞内コロイド成分であるサイログロブリンと反応する自己抗体です。免疫グロブリンクラスのIgG抗体が主ですが、IgA、IgM抗体も認められます。

特に、免疫性甲状腺疾患である橋本病患者において本抗体の陽性率が高く、抗体価は広く分布します。バセドウ病患者においても本抗体は陽性を示しますが、抗体価は橋本病に比べて低い場合が多いです。よって、抗サイログロブリン抗体の測定は、自己免疫性甲状腺疾患の診断および鑑別に有用です。

▼検査要項

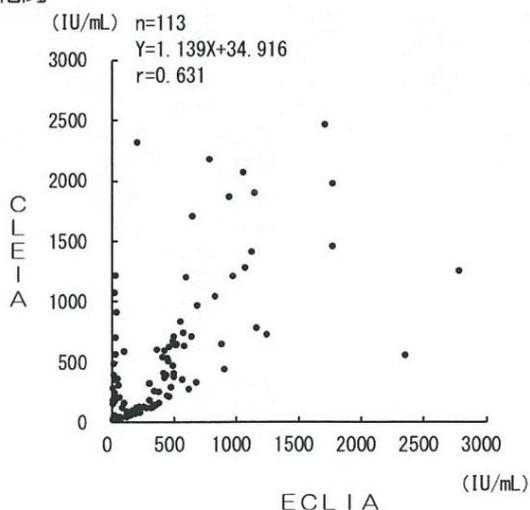
検査項目名	抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕
項目コード	X590 5
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	19.3未満 (IU/mL)
報告範囲 (単位)	10.0未満、10.0~99900000 (IU/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	144点 (「D014」自己抗体検査「10」)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	

●参考文献

矢野 美沙希, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793~804, 2020. (検査方法参考文献)

戸井田 晋, 他: ホルモンと臨床 43 (11) : 1107~1115, 1995. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表: 単位 IU/mL)

		ECLIA		計
		28≤	<28	
CLEIA	19.3≤	94	12	106
	<19.3	2	38	40
計		96	50	146

2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● サイログロブリン〔CLEIA〕

サイログロブリン(Tg)は、甲状腺濾胞細胞のみで合成される分子量66万の糖蛋白です。Tgは、甲状腺ホルモンの貯蔵型として甲状腺濾胞腔内で貯えられ、TSHの刺激により、ペルオキシダーゼ作用でT3やT4の合成が行われます。よって、Tgは臓器特異性が高く、さまざまな甲状腺疾患のマーカーとなります。特に、甲状腺濾胞からの漏出状況の指標となり、甲状腺分化癌の手術後評価、および術後の再発・転移マーカーとして使用されます。また、バセドウ病での治療の効果、寛解の指標、先天性甲状腺機能低下症の病型決定などにも有用です。画像診断との組合せにより、結節性甲状腺腫の術前診断や良性の甲状腺疾患と悪性腫瘍とを鑑別する可能性も示唆されています。

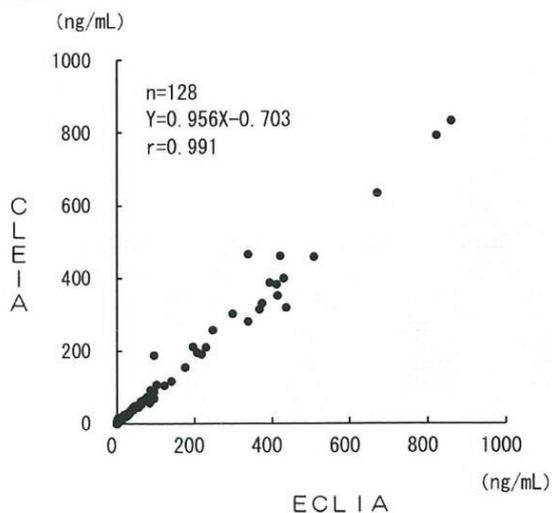
▼検査要項

検査項目名	サイログロブリン〔CLEIA〕
項目コード	X701 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値(単位)	35.1以下 (ng/mL)
報告範囲(単位)	0.06未満、0.06~99900000 (ng/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	133点 (「D008」内分泌学的検査「17」)
判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	

●参考文献

北村 由之, 他: 医学と薬学 77 (12) : 1683~1690, 2020. (検査方法参考文献)
 武田 京子: ホルモンと臨床 59 (6) : 517~523, 2011. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● トリヨードサイロニン (T3) [CLEIA]

トリヨードサイロニン (T3) は、サイロキシン (T4) に比べて速効性で作用効果も大きく、生理的に重要な物質です。特に、T3 thyrotoxicosisとよばれる甲状腺機能亢進状態では、T4濃度 (Total T4、FreeT4)、TBGは正常値を示しますが、T3 濃度は高値を示します。また、血中T3濃度の測定は、甲状腺機能亢進症およびその再発の早期発見、甲状腺機能亢進症の治療経過観察の指標となり、甲状腺機能の診断に有用です。

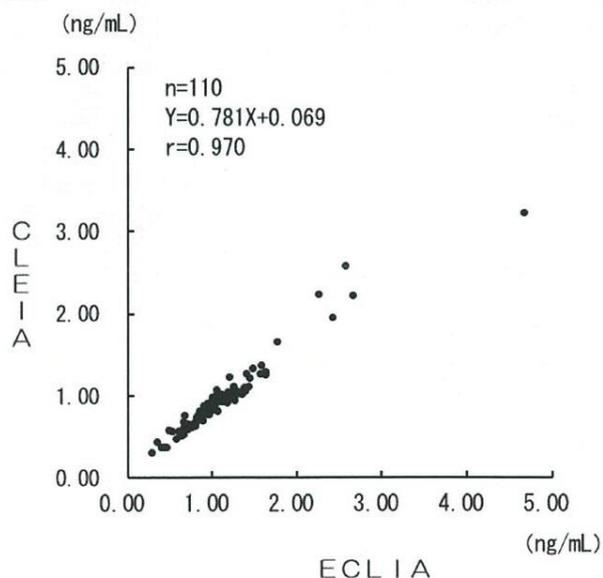
▼検査要項

検査項目名	トリヨードサイロニン (T3) [CLEIA]
項目コード	X408 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	0.62~1.16 (ng/mL)
報告範囲 (単位)	0.20未満、0.20~99900000 (ng/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	102点 (「D008」内分泌学的検査「8」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

池田 斉：臨床検査 38 (11) : 102~103,1994. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● サイロキシン (T4) [CLEIA]

サイロキシン (T4) は、甲状腺でトリヨードサイロニン (T3) とともに合成され、血中では大部分が蛋白質と結合した結合型で存在し、ごく少量が遊離型として存在します。血中のT4は末梢組織で代謝され、遊離型T4のみがホルモン作用を発揮します。従って、甲状腺機能検査として遊離T4量を測定することが望ましいのですが、結合型と遊離型は動的平衡状態にあるため、結合型を測定することによっても血中のT4濃度を評価することができます。

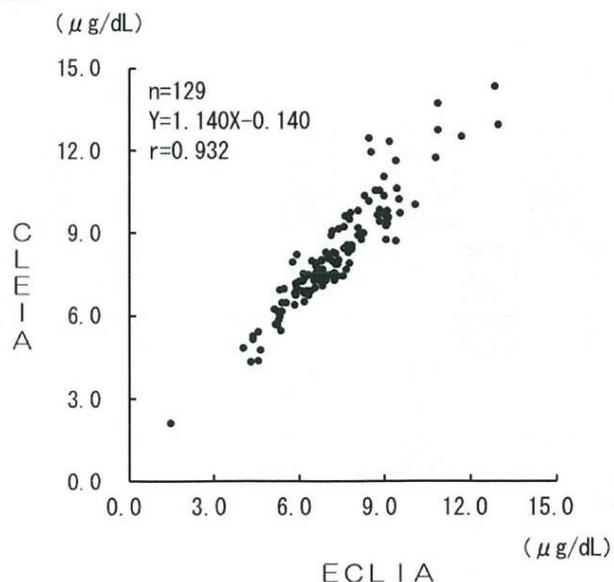
▼検査要項

検査項目名	サイロキシン (T4) [CLEIA]
項目コード	X496 5
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	4.53~8.38 ($\mu\text{g}/\text{dL}$)
報告範囲 (単位)	0.50未満、0.50~99900000 ($\mu\text{g}/\text{dL}$)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	111点 (「D008」内分泌学的検査「12」)
判断料	144点 (生化学的検査 (II) 判断料)
備考	

●参考文献

女屋 敏正：臨床検査 38 (11) : 99~101, 1994. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

